HOKUGA 北海学園学術情報リポジトリ
学校法人北海学園
北海学園大学
北海商科大学

タイトル	さらば同志よ！ До свидания, товарищ！
著者	大谷, 通順; OTANI, Michiyori
引用	北海学園大学人文論集(74): 25-27
発行日	2023-03-31

Hokkai-Gakuen Organization of Knowledge Ubiquitous through Gaining Archives.

さらば同志よ！
До свидания, товарищ！

北海学園大学人文学部日本文化学科　大　谷　通　順

教養部以来31年にわたってロシア語教育に尽力されてきた寺田吉孝先生がこの3月で退職されます。先生のご赴任当時を知る唯一の人文学部教員として，衷心からの謝意をこめ，いささか当時を回憶させていただきます。

ロシア語は私が担当する中国語とは兄弟のような科目で，教養部カリキュラム改革の一環として開設されました。両言語はいずれも伝統的な第二外国語である独・仏語と異なり，教養面だけではなく実用面をも視野に入れた教育を目的とするものとされました（皮肉にも，戦前，ロ（魯・露）・中（清・漢・支那・満）両語が実用一辺倒の「特殊語学」とされ，旧制高等学校の語学教育に居場所を得られなかったことと裏腹の関係にあります）。そのため，学生の言語運用能力を高める細やかな指導が可能になるように，1クラスの定員は30名以下に制限されました。

スタート当初のロシア語は非常勤講師による授業で当座をしのいでいましたが，1990年の第10回教授会（11月1日）でついに専任教員を採用することが議決されました。翌年，第6回教授会（5月23日）で一風変わった審査報告がなされました。当時，教養部長が化学者の相川雅之先生であったため，会場は自然科学実習室でした。しかも，一般的な業績報告のあと，おもむろに旧ソ連で学位を授与された数学者の鈴木輝雄先生が，電話の受話器をとり，候補の寺田先生に対してロシア語による口頭試問を始められたのです。教授会メンバー全員は聴き取れるか聴き取れないかにかかわらず，スピーカーから流れる長時間の通話に耳を傾けました。少々滑稽ですが，カリキュラム改革の渦中にあった教養部の先達たちの並々ならぬ意気

込みを汲みとるべきでしょう。

こうして寺田先生は1992年4月に教養部へ赴任されました。私は入れ違いに長期出張で中国に渡ったため，1年遅れの1993年からようやく先生と業務をご一緒させていただくことになりましたが，ただちに先生の柔軟な発想，実務での手際の良さ，そして根本にある「学生想い」に感心することになります。以下，それらが顕著に表れた三つの例について述べたいと思います。

何よりも最初に挙げるべきは，1994年に早くも開始されたヴラヂーミル大学での語学研修です。それは学校法人から何の支持や支援もない中，ひたすら学生たちの熱意にほだされて始められました。結果として，現地への渡航手続きおよび交通手段の確保に始まり，先方の大学での宿泊や授業の準備，さらには現地での見学の引率まで，1ヶ月を超える滞在に必要なあらゆる業務を寺田先生がお独りでこなさねばなりませんでした。我々中国語教員はそれより6年前に北京理工大学での中国語研修を開始しており，学内で同様のあしらいをうけていましたので，先生のご苦労がいかほどであったか痛いほどわかります。ただし中国語研修は初回だけ公式行事として実施されたおかげで，その際に設けられた制度的な基盤をある程度利用できました。したがって私の苦労など先生とは比較にならないことも明言しておかなければなりません。

ロシア語研修にせよ，中国語研修にせよ，わずか1ヶ月余りとはいえ，それに参加した学生は，国家制度から日常習慣まで日本とまったく異なる環境下で集団生活をしたためか，学習言語はもとより，一般的な思考や行動についても思いがけない成長をみせます。おもしろいことに，ロシア語研修に参加した学生の中には，ごく少数ですが，中国語研修に参加する者も出現します。彼ら・彼女たちの口を通して語られる偽らざる感想から，ロシアでの体験がどれほど貴重で，また引率中の寺田先生がどれほどユーモラスで魅力的か知ることができました。

第2に挙げるべきは，このようにロシア語研修への参加を切望するような学生を育てあげる，平素の教育活動です。時間割内の通常授業について

ここでは措き，課外活動についてのみふれます。旺盛な学習意欲をもつ学生たちにとって，時間割の授業だけでは食い足りません。寺田先生はそのような学生たちのために愛好会（のちに同好会）を組織し，ロシア語学習のための各種活動を実施し，機関紙を発行しました。活動に参加した学生はすべて多かれ少なかれ，その中から何かを吸収したはずですが，とりわけ明確な形に結実したものとして，卒業後もロシアとの関係を維持して職業につなげた例がいくつもあります。具体的には外交官，税関職員，国際捜査担当警察官，貿易業，通訳，ジャーナリスト，対外日本語教員などです。じつは中国語を学ぶ学生たちも，やはり課外活動に積極的で，夏・冬の合宿，検定対策学習会，機関紙発行など，さまざまな研究会活動をかつて自主的に展開し，一部の者は現在も中国との関わりの中で生きています。したがって，私も先生の教育活動の意義には大いに共感をもちます。

第３に挙げたいのは，教養部解体に伴って，各学部のカリキュラム上で語学教育の取り扱いが大きく変動する中，先生が一貫して学生の成長に心を砕き，次々に打ち出された対策です。たとえば（１）英語以外の諸外国語を結びつけたリレー講義「世界の言語と文化」の考案と運営，（２）その教科書『言語と文化』の編纂と絶えざる改訂，（３）通年の課程を半期のみで集中的に習得させる「半期連続」科目の創設，そして（４）英語以外の外国語に特化した学生ガイダンスを全学の教務日程中に位置づけ，そのための冊子を毎年編集することなど，すでに一般教育カリキュラムに定着したもろもろの活動は，すべて先生の斬新なアイディアを起源とし，堅実な手法で逐次実現されてきた成果なのです。その形成過程に同志として私も参加できたことを，この上なく幸せに思います。

最後に私事にわたりますが，早くから先生とはシベリア鉄道での旅行をお約束しながら，その後諸事に紛れて実現できていません。私も来年には自由な身になりますので，ぜひ念願を成就したいものです。